



出前講座報告書

①平成30年8月29日 ②平成30年10月31日 県北保健福祉事務所

地域診断の方法－PCM手法－

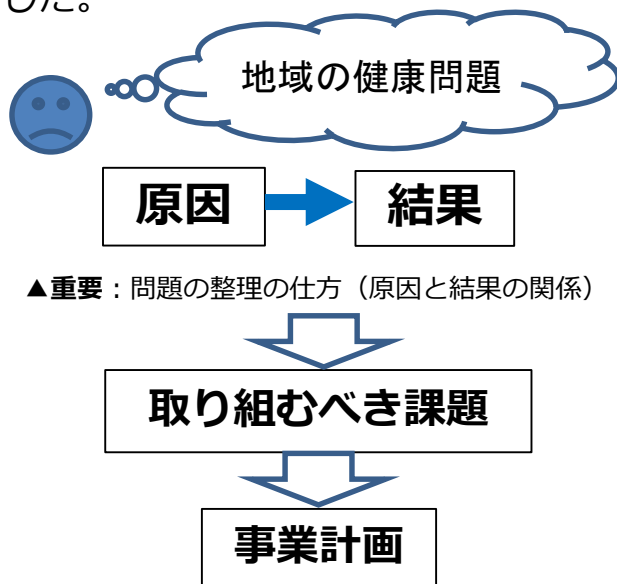
今回は、PCM（Project Cycle Management）手法の考え方をもとに、
①事業計画の考え方、②事業のモニタリングと評価の視点について、2日間で学びました。

講義・グループワークの様子①

まず、事業計画を立てるうえでのポイントと手順、目標達成の方法の考え方を学びました。問題には原因があり、事業計画にはその因果関係と根拠が必要です。グループワークでは因果関係の整理や、実際の調査データからみえる問題を取り上げ原因を考察しました。



▲事業計画を日常の行動になぞらえて考える演習の様子。



▲重要：問題の整理の仕方（原因と結果の関係）

▲重要：事業計画までのプロセス

～①講師紹介～



福島県立医科大学
健康リスクコミュニケーション学講座
日本学術振興会 特別研究員
小林智之

- 略歴：同志社大学大学院 心理学研究科 博士後期課程修了（心理学博士）。福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座の特別研究員を経て、現在は日本学術振興会の特別研究員。
- 専門領域：社会心理学、社会的認知、集団間関係

🍵 講義・グループワークの様子②

次に、事業のモニタリング、事業評価の基本的な知識および必要性、事業の成果・特徴を伝えるポイントについて学びました。グループワークでは、参加者が事業を評価するうえで心がけていることを振り返り、その後、評価の視点について考え、共有しました。

事業の実施

モニタリング

評価



成果・特徴を伝えよう！

～②講師紹介～



福島県立医科大学
健康リスクコミュニケーション学講座
保健技師 吉田 和樹

- ・ 略歴：福島県立医科大学大学院医学研究科修士課程修了。保健師・大学教員の経験を得て、福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座の保健技師、大学非常勤講師、保健センターに勤務している。
- ・ 専門領域：母子保健（特に父親の育児）、高齢者保健、国際保健（カンボジアの子どもを対象とした健康教育）

* アンケート集計結果

1回目（8月29日）参加者は16名、アンケート回収は15名。
2回目（10月31日）参加者は18名、アンケート回収は18名。

評価項目	1回目 そう思う ¹⁾	2回目 そう思う ¹⁾
研修の資料や進行について		
配布資料は適切だった	93%	100%
時間配分は適切だった	100%	100%
進行は適切だった	100%	100%
講義について		
講義内容が理解できた	100%	94%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	100%	100%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	100%	83%
話し合いについて		
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	100%	89%
あなたご自身について		
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	60%	61%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	53%	50%

* 参加者の声 * (一部抜粋)

- ・ 「様々な要因をつないで結果を導くという考え方、振り返りの大切さを感じた」
- ・ 「これまでの評価の視点が偏っていたと感じました」

* 復習ポイント *

- ・ 事業計画ポイント（4つ）
- ・ 事業評価の視点

編集後記

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

より良くしたい気持ちが強いほど主観的になりがちですが、客観的な視点や根拠をもとに論点を要約して伝えることが必要とのことです。今後、普段の生活でも心がけたいと思いました。（荒）